



今はもう幾十年も経ち、ともすれば
忘れられてしまいそうな時代。
かつて優れた若者達が勇ましく
祖国の花と散った時代がございました。

「清十郎殺さば おなつも殺せ、
生きて思いを残すより」

狂うことすら出来なかった
残されたうら若き妻の心を
表現したかったのです。

おなつ



夕鶴



祖母は陸前の国と
語っておりました。
どこからでも見える
藍色をした北上の山脈が
うねるようにかすみ、
毎日眠たげにのろのろと
流れる川岸に沿って
小さなすみれが
春を告げるのです。

ひばり



蝶



すずめ